

第3回 ミドルステージ研修

令和3年12月1日(水)

開催場所 学園南こども園

講演 「幼保小の接続の意義と課題②」

～写真付きの保育記録を使って、

子どもが身につけるべき3つの資質・能力を支援する」

講師 帝塚山大学 教授 松浦 真理氏

研修のテーマ：連携・接続

1. 前回の振り返りと補足(第1回アンケートから)
2. 各園の事前課題から見取る資質能力の共有
3. 「写真付きの保育記録」の意義と工夫



1. ○第1回研修のアンケートで「全国的な連携・接続の傾向や先行している行政区の情報をもっと知りたい」との参加者の声があり、補足と振り返りがあった。



- ・こ幼保小接続の全国的な状況は小学校の授業や行事の参観などの交流どまりが50%、ほぼこ幼保教諭の小学校参観が多く、接続を見通したものはまだ少ない現状。奈良県内でも先進的な取り組みの高田市の紹介。

○高等学校卒業までに育みたい資質・能力の3つの柱は幼児教育とつながる。

個別の知識や技能の基礎 = What

思考力・判断力・表現力等の基礎 = How

学びに向かう力・人間性等の基礎 = Feel

幼児期に基礎を培い、小学校から高校にかけて3つの力を総体として身につけて大人へ。3つの資質・能力で考えることで小学校とのつながりがわかりやすくなる。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を3つの柱の観点から確認し、10の姿は「結果として育っていればよい、または、育っている途上でよいので「絶対に育てないといけない目標」ではないことを再確認した。

また、バンビーノ・プランの3つの柱との対応を資料を見ながら考える。

2. ○事前課題を持ち寄り、6グループに分かれてグループワークを行う。

事前課題は、3つの資質・能力に着目し、1回目は保育の中で一人の子どもや集団に焦点をあてた写真から読み解きを行い、2回目は1回目より「力がついてきている」「育っている」と感じた場面から読み取りをし、その間どのような声かけや関わりをしたかを記入してもらった。

～写真付きの保育記録を使っのグループワーク～

- ・それぞれの保育記録(写真記録)を見せ合い、どういう場面か、なぜその場面で成長を感じたのかを話し合う。
- ・各園の事前課題からその場面で育っている資質能力の見取りをし、1つ選んだ事前課題を他のグループに回覧し、見取った資質能力を共有する。



※子どもがしたこと記録でも、子どもの姿に対する保育者の感想でもなく、その先を考察することが大切。

○保育記録の役割とは…

- ① 子ども理解を深める。
- ② 子どもと自分の関係を振り返り、自身の保育の向上につなげる。
- ③ 保育者間で共有することで、子どもの見方を深めたり、広げたりして前項の2つにつなげる。
- ④ 保護者に園の保育を理解してもらおうと同時に子どもの育ちの支援者になってもらうツールとして用いる。

3、「写真付きの保育記録」の意義と工夫

○ニュージーランドのラーニングストーリーを参考に子どもの「今」を大切に、写真で記録することで子どもの学びの記録であると同時に保育者の教えの記録も取ることができる。



まとめ

- ・写真で記録する時に、自分がいいなと思った瞬間を撮ると、その子のステキな瞬間や育ちが撮れるのではないかと1か月でクラスの子を網羅できるように撮ることで、保育記録としての意義も出てくる。
- ・ミドルリーダーとして、3つの資質・能力から子どもを見ることで、小学校とのつながりが、よりわかりやすくなる。

【参加者の声・気づき】

- ・写真を使った保育記録を取り、振り返りや記録をし、一人一人の育ちを読み解いていきたい。
- ・様々な保育者の着眼点や保育観・思い・考えを聞いたり知ったりして刺激をもらったので、意識しながら保育をしていきたい。

作成者 幼児教育アドバイザー 富田 恵